

# 市民医療センター長・医務部長・事務部長目標

市民医療センター長 黒木 康富(くろき やすとみ)



当センターの仕事をもって貢献しているSDGsの主なゴール



ゼロカーボンシティ実現に向けた当センターの方針

環境への負荷の低減を意識した施設運営を行います。  
再整備計画の策定に当たっては、ゼロカーボンシティの理念を踏まえた内容とします。

医務部長 東 賢治(ひがし けんじ)

事務部長 林 誠(はやし まこと)



## 市民医療センターの仕事

市民医療センターは、公的医療機関として地域に必要な医療を提供し、保健医療の向上及び健康維持・増進を図るため、内科の入院・外来診療、小児科の外来・急患診療及び人間ドックなどの健診事業を中心に病院事業を運営しています。

## 市民医療センターの令和5年度の目標

市民医療センターは、市内医療機関などと連携し、地域医療の維持・向上を図るとともに、安心して子育てができるよう小児医療体制の安定的な運営に努めるなど、地域に根ざした病院として信頼される医療機関を目指します。5類に移行する新型コロナウイルスに対しては、引き続き感染の拡大防止・抑制に取り組みます。施設の老朽化に対しては、地域に必要な病院機能の検討を行い、再整備計画の策定を進めます。

目標達成に向けた重点事業

No	事業項目	事業の概要	事業の目標	事業の達成実績
1	地域医療への貢献と在宅医療の支援	埼玉県地域医療構想に示される地域の医療環境の変化に合わせ、市内の関係機関や地域包括支援センターなどとの連携強化を進め、地域医療への貢献や在宅医療の支援に取り組みます。	地域包括ケア病床の安定的稼働を図るとともに、在宅療養や介護施設からの患者の入院から退院まで円滑に行える地域連携(地域完結型医療)体制を推進します。	新型コロナウイルス感染予防を徹底しつつ、関連施設との連携強化を図り、地域包括ケア病床及び急性期を含めて昨年度より多くの入院患者を受入れました。
2	小児初期救急医療体制の推進	安心して子育てができる医療環境を整備するため、小児科第二次救急医療機関や、市内の関係医療機関と連携しながら、切れ目のない小児初期救急医療を提供できる体制を維持します。	所沢市域全体で、全日、昼間・夜間・深夜の全ての時間帯で、小児初期救急医療体制の安定的な運営に努めます。	小児の外来患者が例年に比べ大幅に増加しました。 市内医療機関との連携により、年末年始を含め全ての時間帯での小児初期救急医療体制を維持し、安心して子育てができる医療環境の確保に努めました。
3	新型コロナウイルス対策	新型コロナウイルス感染者の拡大抑制・予防のため、感染者数の状況などに応じた迅速な対応を図ります。	5類に移行する新型コロナウイルスに対し、急性期治療の終わったアフターコロナ患者の転院受け入れや、発熱外来を継続します。 また、軽症者については、当センターにおいて入院を受け入れます。	新型コロナウイルス感染症の5類移行後、陽性者の入院受入れを開始しました。 発熱外来も継続し、地域で安心して暮らせる医療環境の提供に努めました。
4	再整備計画の策定と経営状況の改善	施設の老朽化に対応するため、公立病院として担うべき役割や機能等について検討し、院内外の意見を踏まえたくうえで「所沢市市民医療センター再整備基本計画」を策定します。 併せて、引き続き病院事業の経営改善に取り組みます。	パブリックコメントや市民説明会での意見、審議会等での協議などを踏まえ、令和5年度中に「所沢市市民医療センター再整備基本計画」を策定します。 併せて、経営強化プランを策定し、経営改善を図ります。	運営委員会での審議や市民説明会を経てまとめた計画素案について、パブリックコメント手続を実施したうえで「市民医療センター再整備基本計画」及び「経営強化プラン」を策定しました。 今後、再整備に向けて施設の設計等を行っていきます。